

初期アルツハイマー型認知症における嗅覚障害の基盤に関する研究に関する告知

アルツハイマー病（AD）では嗅覚障害を合併することが知られており、近年の研究では、軽度認知障害（MCI）患者において、嗅覚低下を認める患者では認めない患者と比較して有意差をもって高率にADに移行することが判明しています。当院では診断補助の目的で嗅覚検査を実施していますが、認知症で嗅覚障害が起こる原因についての研究を行います。この度、より強固な知見を得るために得られたデータを統合し、論文や学会発表などの方法で情報発信する運びとなりました。本施設の研究に協力していただいた方々へは改めましてところより感謝申し上げます。このことと関連し下記で具体的なお説明をさせていただきますが、本告知に対して協力を望まれない方は遠慮なくお申し出願います。お問い合わせやその方法につきまして下記をご参照ください。

1. データの利用目的とデータ統合の方法

【利用目的】 高齢化が進む日本では認知症の有病率が高まる一途であり、より早期に、認知機能の軽微な低下などの初期症状を鋭敏に検出し、早期治療・早期介入に結び付けることが大切です。早期診断のバイオマーカーとして嗅覚検査に着目しており、有効性を検証するためのより確かな情報として利用されることとなります。

本施設で行われた研究名：初期アルツハイマー型認知症における嗅覚障害の基盤に関する研究 -脳血流シンチを用いた後方視的研究-

研究目的： MCIと初期ADによるMCI群の嗅覚検査の関連を以下の点で明らかにする。
* MCIから初期AD群の嗅覚検査結果と脳容積、脳血流の相関部位。MCIの初回嗅覚検査結果とADへのコンバート率の関係

研究実施期間： 2020年3月1日から2023年3月31日まで

研究実施場所： 兵庫県立リハビリテーション西播磨病院

【方法】 本施設の研究に協力していただいて得られた皆様のデータは、個人名を記号化することにより、個人の識別が不可能な形で利用されます。よって個人のプライバシーは確実に保護されます。

